

## 第3章 新入生および保護者対象調査の結果報告

### —奨学金・学生寮に関する集計結果—

#### (1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

#### (2) 方法

調査対象者、調査時期、質問項目については、調査の概要に記載されているため、省略する。

#### (3) 奨学金に関する結果

##### ①新入生の結果

どのような学生が、奨学金について認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」×「奨学金の受給経験」、「兄弟姉妹の人数」、「出身地」、「学生寮の認知」のクロス表を作成した。「奨学金の認知」、「学生寮の認知」は、それぞれの選択肢の中で、一つでも認知していれば「知っている」とした。結果を表1-1～1-4に示す。

表 1-1 奨学金受給経験 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	あり	度数	32	11	43
			74.4%	25.6%	100.0%
	なし	度数	259	141	400
			64.8%	35.3%	100.0%
合計		度数	291	152	443
			65.7%	34.3%	100.0%

これまでの奨学金経験と奨学金認知度間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 1-2 兄弟姉妹人数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
兄弟姉妹人数	2人	度数	155	90	245
			63.3%	36.7%	100.0%
	3人	度数	78	27	105
			74.3%	25.7%	100.0%
	4人	度数	6	5	11
			54.5%	45.5%	100.0%
	5人	度数	0	1	1
			0.0%	100.0%	100.0%
	6人	度数	1	0	1
			100.0%	0.0%	100.0%
	非該当	度数	51	25	76
			67.1%	32.9%	100.0%
合計		度数	291	148	439
			66.3%	33.7%	100.0%

兄弟姉妹の人数と奨学金認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 1-3 出身地 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身地	国内	度数	286	144	430
			66.5%	33.5%	100.0%
	海外	度数	2	3	5
			40.0%	60.0%	100.0%
	不明	度数	3	1	4
			75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	291	148	439
			66.3%	33.7%	100.0%

出身地が国内か海外かと、奨学金認知度との間には関連が見られなかった。これは昨年度の結果とは異なるものであった。

表 1-4 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知らない	度数	45	66	111
			40.5%	59.5%	100.0%
	知っている	度数	246	86	332
			74.1%	25.9%	100.0%
合計		度数	291	152	443
			65.7%	34.3%	100.0%

学生寮について認知している場合は、奨学金の認知度が高いが、学生寮について認知していない場合は、奨学金の認知度が低いと示された。これは昨年度と同様の結果であった。

また、どのような学生が、奨学金の受給経験があるのかを明らかにするため、「奨学金の受給経験」×「兄弟姉妹の人数」、「出身地」、「学生寮に対する認知」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表 2-1～2-3 に示す。

表 2-1 兄弟姉妹人数 と 奨学金受給経験 のクロス表

			奨学金受給経験		合計
			あり	なし	
兄弟姉妹人数	2人	度数	24	221	245
			9.8%	90.2%	100.0%
	3人	度数	8	97	105
			7.6%	92.4%	100.0%
	4人	度数	3	8	11
			27.3%	72.7%	100.0%
	5人	度数	0	1	1
			0.0%	100.0%	100.0%
	6人	度数	0	1	1
			0.0%	100.0%	100.0%
	非該当	度数	8	68	76
			10.5%	89.5%	100.0%
合計		度数	43	396	439
			9.8%	90.2%	100.0%

兄弟姉妹の人数と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 2-2 出身地 と 奨学金受給経験 のクロス表

		奨学金受給経験	合計		
			あり	なし	
出身地	国内	度数	41	389	430
			9.5%	90.5%	100.0%
	海外	度数	2	3	5
			40.0%	60.0%	100.0%
	不明	度数	0	4	4
			0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	43	396	439
			9.8%	90.2%	100.0%

出身地と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 2-3 学生寮認知 と 奨学金受給経験 のクロス表

		奨学金受給経験	合計		
			あり	なし	
学生寮認知	知らない	度数	11	100	111
			9.9%	90.1%	100.0%
	知っている	度数	32	300	332
			9.6%	90.4%	100.0%
合計		度数	43	400	443
			9.7%	90.3%	100.0%

学生寮についての認知と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

## ②保護者の結果

どのような保護者が、子どもの奨学金を希望しているか明らかにするため、「奨学金希望」×「奨学金の受給経験」、「奨学金の認知」、「学生寮に対する認知」、「世帯年収」、「家計支持者の年収」、「父親の就労形態」、「母親の就労形態」、「家計支持者の属性」、「入学後の暮らし向き」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表3-1～3-9に示す。

表3-1 奨学金受給経験 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
奨学金受給経験	経験なし	度数	246	152	398
			61.8%	38.2%	100.0%
	経験あり	度数	19	26	45
			42.2%	57.8%	100.0%
合計		度数	265	178	443
			59.8%	40.2%	100.0%

過去に奨学金の受給経験がある場合、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表3-2 奨学金認知 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
奨学金認知	知らない	度数	94	19	113
			83.2%	16.8%	100.0%
	知っている	度数	171	159	330
			51.8%	48.2%	100.0%
合計		度数	265	178	443
			59.8%	40.2%	100.0%

奨学金について認知している場合は、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表3-3 学生寮認知 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
学生寮認知	知らない	度数	108	33	141
			76.6%	23.4%	100.0%
	知っている	度数	157	145	302
			52.0%	48.0%	100.0%
合計		度数	265	178	443
			59.8%	40.2%	100.0%

学生寮について認知している場合は、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-4 世帯年収 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
世帯年収	400万円未満	度数	7	18	25
			28.0%	72.0%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	25	37
			32.4%	67.6%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	32	40	72
			44.4%	55.6%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	34	45	79
			43.0%	57.0%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	64	27	91
			70.3%	29.7%	100.0%
1200万円以上1400万円未満	度数	29	10	39	
		74.4%	25.6%	100.0%	
1400万円以上1600万円未満	度数	27	9	36	
		75.0%	25.0%	100.0%	
1600万円以上1800万円未満	度数	8	1	9	
		88.9%	11.1%	100.0%	
1800万円以上	度数	30	1	31	
		96.8%	3.2%	100.0%	
不明	度数	8	2	10	
		80.0%	20.0%	100.0%	
合計		度数	251	178	429
			58.5%	41.5%	100.0%

世帯年収が低い場合は、奨学金の希望が多く、世帯年収が高い場合は、奨学金の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-5 家計支持者の年収 と 奨学金希望群 のクロス表

		奨学金希望群		合計
		希望しない	希望する	
家計支持者の 年収	400万円未満	度数 10	31	41
		24.4%	75.6%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数 22	28	50
		44.0%	56.0%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数 59	52	111
		53.2%	46.8%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数 44	33	77
		57.1%	42.9%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数 49	19	68
		72.1%	27.9%	100.0%
1200万円以上1400万円未満	度数 19	6	25	
	76.0%	24.0%	100.0%	
1400万円以上1600万円未満	度数 14	3	17	
	82.4%	17.6%	100.0%	
1600万円以上1800万円未満	度数 6	0	6	
	100.0%	0.0%	100.0%	
1800万円以上	度数 21	1	22	
	95.5%	4.5%	100.0%	
不明	度数 7	5	12	
	58.3%	41.7%	100.0%	
合計	度数 251	178	429	
	58.5%	41.5%	100.0%	

家計支持者の年収が低い場合は、奨学金の希望が多く、家計支持者の年収が高い場合は、奨学金の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-6 父親の就労形態 と 奨学金希望群 のクロス表

		奨学金希望群		合計
		希望しない	希望する	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数 226	144	370
		61.1%	38.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数 1	3	4
		25.0%	75.0%	100.0%
	自 営	度数 18	18	36
		50.0%	50.0%	100.0%
	無 職	度数 2	2	4
	50.0%	50.0%	100.0%	
いない	度数 2	9	11	
	18.2%	81.8%	100.0%	
不 明	度数 2	2	4	
	50.0%	50.0%	100.0%	
合計	度数 251	178	429	
	58.5%	41.5%	100.0%	

父親の就労形態がフルタイム勤務である場合、奨学金の希望は少なく、パートタイム勤務、いないという場合は、奨学金の希望が多いことが示された。

表 3-7 母親の就労形態 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	75	47	122
			61.5%	38.5%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	74	67	141
			52.5%	47.5%	100.0%
	自 営	度数	15	13	28
			53.6%	46.4%	100.0%
無 職	度数	83	43	126	
		65.9%	34.1%	100.0%	
いない	度数	2	6	8	
		25.0%	75.0%	100.0%	
不 明	度数	2	2	4	
		50.0%	50.0%	100.0%	
合計		度数	251	178	429
			58.5%	41.5%	100.0%

母親の就労形態と奨学金の希望との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-8 家計支持者 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者	父親	度数	236	157	393
			60.1%	39.9%	100.0%
	母親	度数	23	21	44
		52.3%	47.7%	100.0%	
その他	度数	2	3	5	
		40.0%	60.0%	100.0%	
合計		度数		181	429

家計支持者が父親か母親かによって、奨学金の希望には関連がないことが示された。これは昨年度とは異なる結果であった。

表 3-9 入学後の暮らし向き と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
入学後の 暮らし向き	ゆとりがない	度数	16	53	69
			23.2%	76.8%	100.0%
	あまりゆとりがない	度数	80	98	178
			44.9%	55.1%	100.0%
	多少ゆとりがある	度数	120	24	144
		83.3%	16.7%	100.0%	
ゆとりがある	度数	26	3	29	
		89.7%	10.3%	100.0%	
不 明	度数	9	0	9	
		100.0%	0.0%	100.0%	
合計		度数	251	178	429
			58.5%	41.5%	100.0%



入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、奨学金の希望が多く、ゆとりがある場合は、奨学金の希望が少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

#### (4) 学生寮に関する結果

##### ①新入生の結果

どのような学生が、学生寮を知っているのかを明らかにするため、「学生寮の認知」×「奨学金の受給歴」、「兄弟の人数」、「出身地」のクロス表を作成した。「学生寮の認知」は、選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」とした。それぞれの結果を表 4-1～4-3 に示す。

表 4-1 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
奨学金受給経験	なし	度数	100	300	400
			25.0%	75.0%	100.0%
	あり	度数	11	32	43
			25.6%	74.4%	100.0%
合計		度数	111	332	443
			25.1%	74.9%	100.0%

過去の奨学金の受給経験と学生寮の認知について、有意な関係は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 4-2 兄弟姉妹人数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
兄弟姉妹人数	2人	度数	56	189	245
			22.9%	77.1%	100.0%
	3人	度数	25	80	105
			23.8%	76.2%	100.0%
	4人	度数	1	10	11
			9.1%	90.9%	100.0%
	5人	度数	0	1	1
			0.0%	100.0%	100.0%
	6人	度数	0	1	1
			0.0%	100.0%	100.0%
	非該当	度数	25	51	76
			32.9%	67.1%	100.0%
合計		度数	107	332	439
			24.4%	75.6%	100.0%

兄弟姉妹の人数と学生寮の認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 4-3 出身地 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
出身地	国内	度数	105	325	430
			24.4%	75.6%	100.0%
	海外	度数	1	4	5
			20.0%	80.0%	100.0%
	不明	度数	1	3	4
			25.0%	75.0%	100.0%
合計		度数	107	332	439
			24.4%	75.6%	100.0%

出身地と学生寮の認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

## ②保護者の結果

どのような保護者が、子ども学生寮への入寮を希望しているかを明らかにするため、「学生寮の入寮希望」×「奨学金の受給経験」、「奨学金の認知」、「学生寮に対する認知」、「世帯年収」、「家計支持者の年収」、「父親の就労形態」、「母親の就労形態」、「家計支持者の属性」、「入学後の暮らし向き」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表 5-1～5-9 に示す。

表 5-1 奨学金受給経験 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
奨学金受給経験	経験なし	度数	306	92	398
			76.9%	23.1%	100.0%
	経験あり	度数	30	15	45
			66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	336	107	443
			75.8%	24.2%	100.0%

過去の奨学金の受給経験と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-2 奨学金認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
奨学金認知	知らない	度数	99	14	113
			87.6%	12.4%	100.0%
	知っている	度数	237	93	330
			71.8%	28.2%	100.0%
合計		度数	336	107	443
			75.8%	24.2%	100.0%

奨学金について認知と、学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-3 学生寮認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
学生寮認知	知らない	度数	140	1	141
			99.3%	0.7%	100.0%
	知っている	度数	196	106	302
			64.9%	35.1%	100.0%
合計		度数	336	107	443
			75.8%	24.2%	100.0%

学生寮について認知している場合は、学生寮への入寮の希望は少なく、知らない場合は、入寮の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-4 世帯年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
世帯年収	400万円未満	度数	11	14	25
			44.0%	56.0%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	22	15	37
			59.5%	40.5%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	50	22	72
			69.4%	30.6%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	52	27	79
			65.8%	34.2%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	78	13	91
			85.7%	14.3%	100.0%
	1200万円以上1400万円未満	度数	32	7	39
		82.1%	17.9%	100.0%	
1400万円以上1600万円未満	度数	30	6	36	
		83.3%	16.7%	100.0%	
1600万円以上1800万円未満	度数	8	1	9	
		88.9%	11.1%	100.0%	
1800万円以上	度数	29	2	31	
		93.5%	6.5%	100.0%	
不明	度数	10	0	10	
		100.0%	0.0%	100.0%	
合計		度数	322	107	429
			75.1%	24.9%	100.0%

世帯年収が低い場合は、学生寮への入寮の希望が多く、世帯年収が高い場合は、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。

表 5-5 家計支持者の年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者の 年収	400万円未満	度数	20	21	41
			48.8%	51.2%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	31	19	50
			62.0%	38.0%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	73	38	111
			65.8%	34.2%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	64	13	77
			83.1%	16.9%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	59	9	68
			86.8%	13.2%	100.0%
1200万円以上1400万円未満	度数	23	2	25	
		92.0%	8.0%	100.0%	
1400万円以上1600万円未満	度数	15	2	17	
		88.2%	11.8%	100.0%	
1600万円以上1800万円未満	度数	6	0	6	
		100.0%	0.0%	100.0%	
1800万円以上	度数	21	1	22	
		95.5%	4.5%	100.0%	
不明	度数	10	2	12	
		83.3%	16.7%	100.0%	
合計		度数	322	107	429
			75.1%	24.9%	100.0%

家計支持者の年収が低い場合は、学生寮への入寮の希望が多く、家計支持者の年収が高い場合は、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。昨年度の結果では、家計支持者の年収と学生寮への入寮の希望との間に、有意な関連は見られなかったが、本年度の結果では、このような関連が見られた。

表 5-6 父親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	284	86	370
			76.8%	23.2%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	2	2	4
			50.0%	50.0%	100.0%
	自 営	度数	24	12	36
			66.7%	33.3%	100.0%
	無 職	度数	2	2	4
			50.0%	50.0%	100.0%
	いない	度数	7	4	11
			63.6%	36.4%	100.0%
	不 明	度数	3	1	4
			75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	322	107	429
			75.1%	24.9%	100.0%

父親の就労形態によって学生寮の希望について、有意な関連は見られなかった。昨年度は「フルタイム勤務」の場合は学生寮を希望しない割合が多かったが、「無職」の場合は希望する割合が多かった。

表 5-7 母親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	88	34	122
			72.1%	27.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	109	32	141
			77.3%	22.7%	100.0%
	自 営	度数	17	11	28
			60.7%	39.3%	100.0%
	無 職	度数	100	26	126
			79.4%	20.6%	100.0%
	いない	度数	5	3	8
			62.5%	37.5%	100.0%
	不 明	度数	3	1	4
			75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	322	107	429
			75.1%	24.9%	100.0%

母親の就労形態と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-8 家計支持者 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者	父親	度数	299	94	393
			76.1%	23.9%	100.0%
	母親	度数	29	15	44
			65.9%	34.1%	100.0%
	その他	度数	3	2	5
			60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	331	111	442
			74.9%	25.1%	100.0%

家計支持者と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-9 入学後の暮らし向き と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	35	34	69
			50.7%	49.3%	100.0%
	あまりゆとりがない	度数	127	51	178
			71.3%	28.7%	100.0%
	多少ゆとりがある	度数	125	19	144
			86.8%	13.2%	100.0%
	ゆとりがある	度数	27	2	29
			93.1%	6.9%	100.0%
	不明	度数	8	1	9
			88.9%	11.1%	100.0%
合計		度数	322	107	429
			75.1%	24.9%	100.0%

入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合、学生寮への入寮の希望が多く、入学後の暮らし向きにゆとりがあると感じている場合、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

## (5) 考察と今後の課題

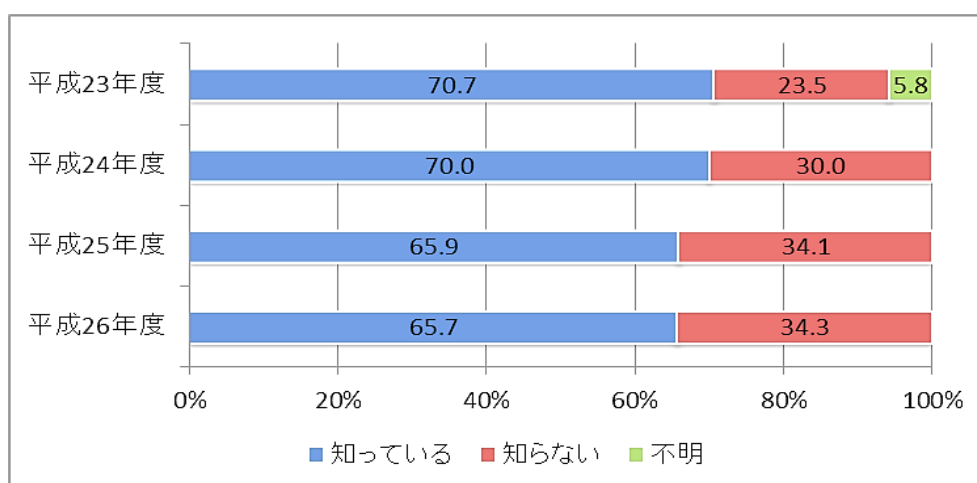
### ①奨学金に関する考察と今後の課題

奨学金についての新入生の結果をまとめると、「奨学金の認知」(表 1-1～表 1-4)については、「学生寮について認知している者」は、奨学金の認知が高いことが示された。これは昨年度の調査でも、同様の結果が示されている。「奨学金受給経験」「兄弟姉妹人数」「出身地」については、有意な関連は見られなかった。昨年度は示されなかった結果として、出身地別の奨学金認知について、今年度は有意な関連が見られなかった。これは、もともと出身地が海外である学生は少数であることも、起因している。

また、「奨学金の受給経験」(表 2-1～表 2-3)については、「兄弟姉妹人数」「出身地」「学生寮認知」については有意な関連が見られなかった。これは昨年と同様の結果である。

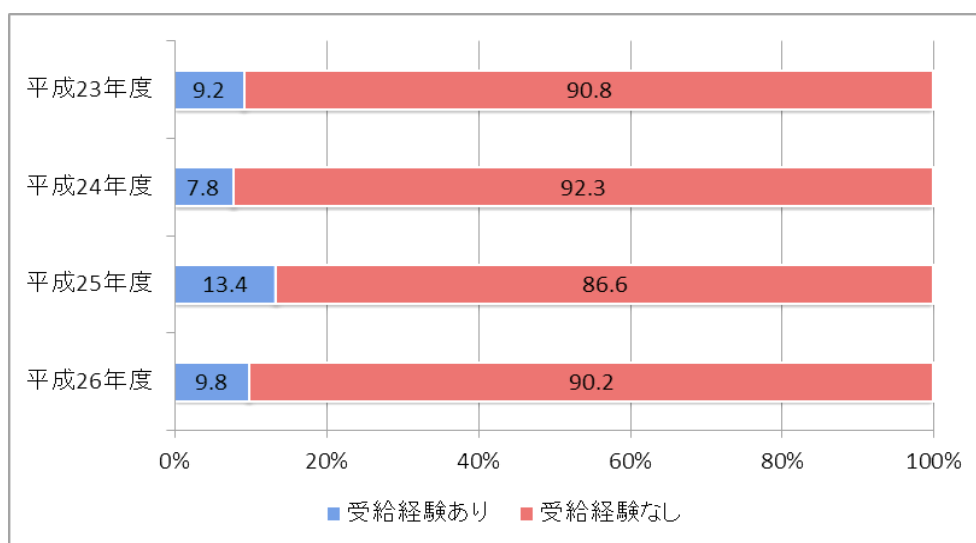
新入生の「奨学金認知」の割合は、「知っている」65.7%、「知らない」34.3%となっており、昨年度の「知っている」65.9%、「知らない」34.1%と比べて、大きな変化は見られなかった。過去3年と比較したものが表 6-1 である。これは現在の学部1年生から4年生の、入学時の回答である。奨学金認知に関しては、4年前と比べると5ポイント減少している。

表 6-1 新入生の奨学金認知の比較



新入生の「奨学金の受給経験」の割合は、「受給経験あり」9.8%、「受給経験なし」90.2%となっており、昨年度の「受給経験あり」13.4%、「受給経験なし」86.0%と比べると、奨学金の受給経験がある者の割合は3.6ポイント減少していることが示された。過去3年と比較した場合(表 6-2)、昨年度は受給経験のある者が10%を超えていたが、それ以前は今年度と同様に10%未満であることが示されている。

表 6-2 新入生の奨学金受給経験の比較



次に、奨学金について保護者の結果をまとめると、「奨学金の希望」(表 3-1～表 3-9)については、「奨学金の受給経験がある者」、「奨学金について認知している者」、「学生寮について認知している者」、「世帯年収が低い者」、「家計支持者の年収が低い者」、「父親がパートタイム勤務の者」、「父親がいないと回答した者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがない者」は、奨学金を希望していることが示された。昨年度は示されなかった結果として、「家計支持者」について、今年度は有意な関連は見られなかった。

保護者の「奨学金の希望」の割合は、「希望する」40.2%、「希望しない」59.8%となっており、昨年度の「希望する」43.5%、「希望しない」56.5%に比べると、希望する割合は3.3%減少していることが示された。過去3年と比較すると、年度ごとに希望する割合が減少していることが示されている。平成23年度に比べると17.6ポイント減少している。平成23年は東日本大震災があり、緊急支援を含め奨学金のニーズが多かったことも予想される。

また、保護者の奨学金認知について過年度と比較(表 6-4)すると、毎年75%前後の保護者が認知していることが示されている。これは質問票の問13について、一つでも○をつけた者を「知っている」としているため、個人によって知っている奨学金の数にはばらつきがある。

表 6-3 保護者の奨学金希望の比較

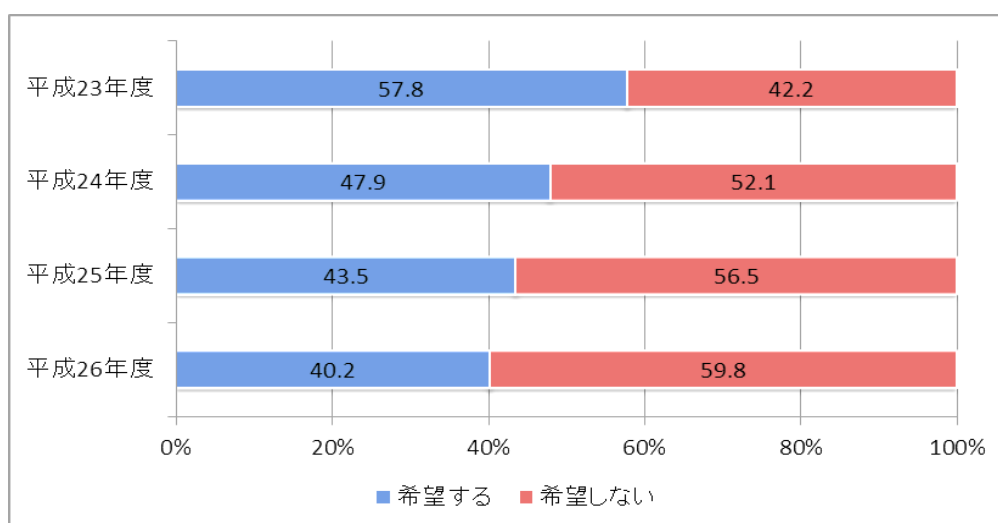
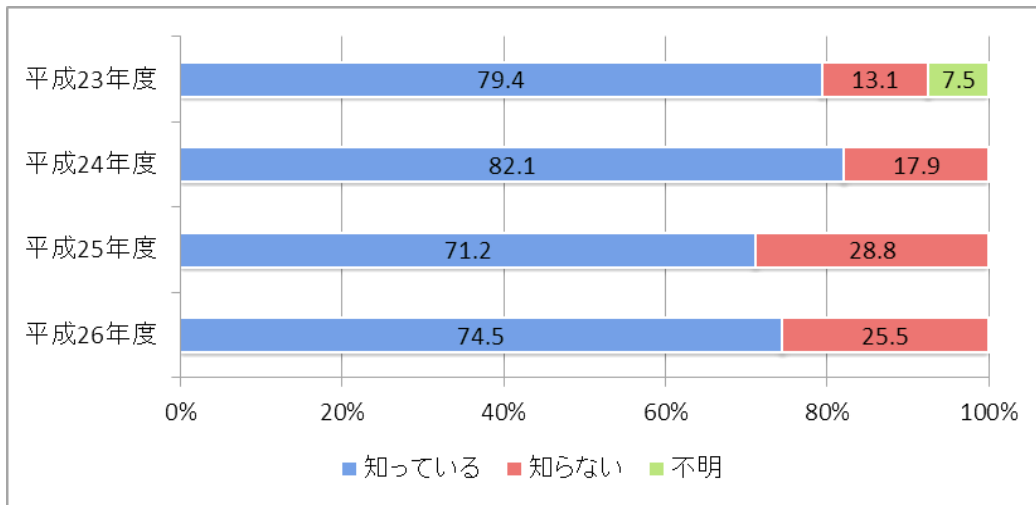


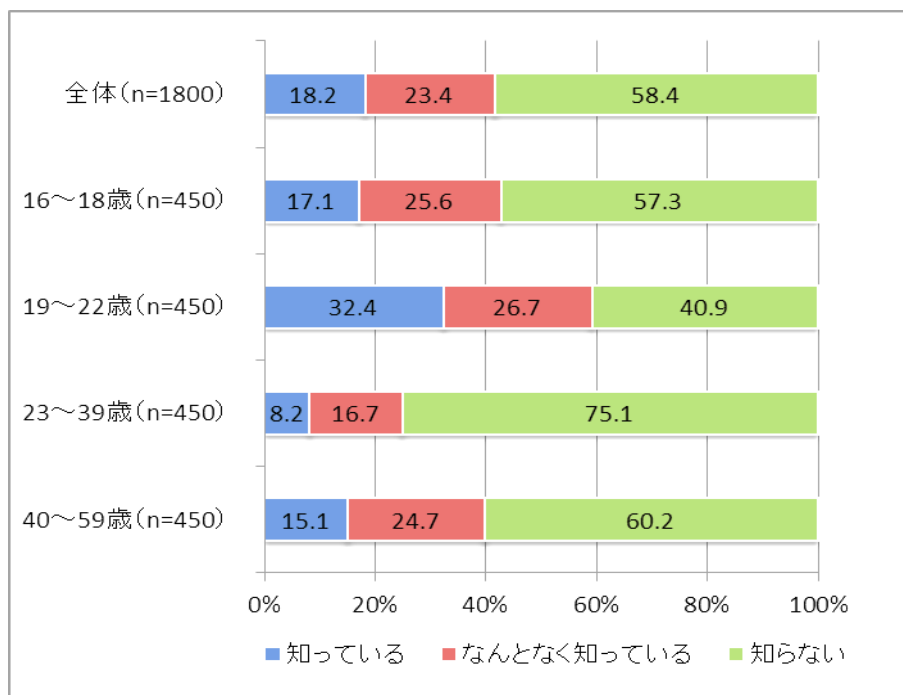


表 6-4 保護者の奨学金認知の比較



奨学金の認知について、平成 24 年に行われた日本学生支援機構（JASSO）の事業の認知度・評価等についての調査（表 6-5）によると、全体では JASSO の事業について「知っている」と答えた割合は 18%、「なんとなく知っている」は 23%であった。年齢別に見ると、「知っている」「なんとなく知っている」の合計した認知率は、16～18 歳は 43%、19～22 歳は 59%であった。また保護者世代の 40～59 歳では 40%となり、学生世代に比べると、認知は進んでいないことがわかる。

表 6-5 日本学生支援機構の認知度



※日本学生支援機構の報告書を基に筆者作成

今年度の本学新入生調査では、日本学生支援機構による奨学金の新入生の認知率は、第一種は38.4%、第二種は35.9%(第1章図表4-9)、保護者の認知率は、第一種は66.3%、第二種は57.3%(第2章図表3-2)であった。JASSOの調査の対象である16~18歳と比較すると、本学の認知率は平均して5.8ポイント低い。しかし保護者世代との比較では、本学が平均して21.8ポイント高いという結果になった。

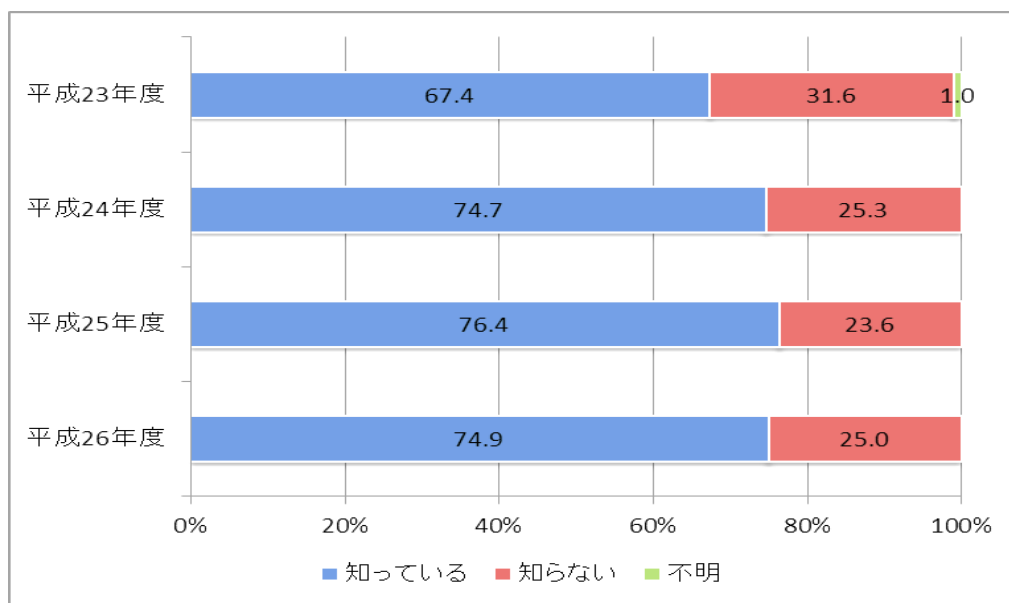
本章表6-1「新入生の奨学金認知の比較」及び表6-4「保護者の奨学金認知の比較」を見ると、新入生の65.7%、保護者の74.5%が奨学金について認知しており、JASSOの調査と比べても高い割合である。これは本学の独自奨学金「みかかずば奨学金」の認知度の高さによるものが大きい。

## ②学生寮に関する考察と今後の課題

学生寮についての新入生の結果をまとめると、「学生寮認知」(表4-1~表4-3)については、「奨学金の受給経験」、「兄弟姉妹人数」、「出身地」との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度の調査でも、同様の結果が示されている。

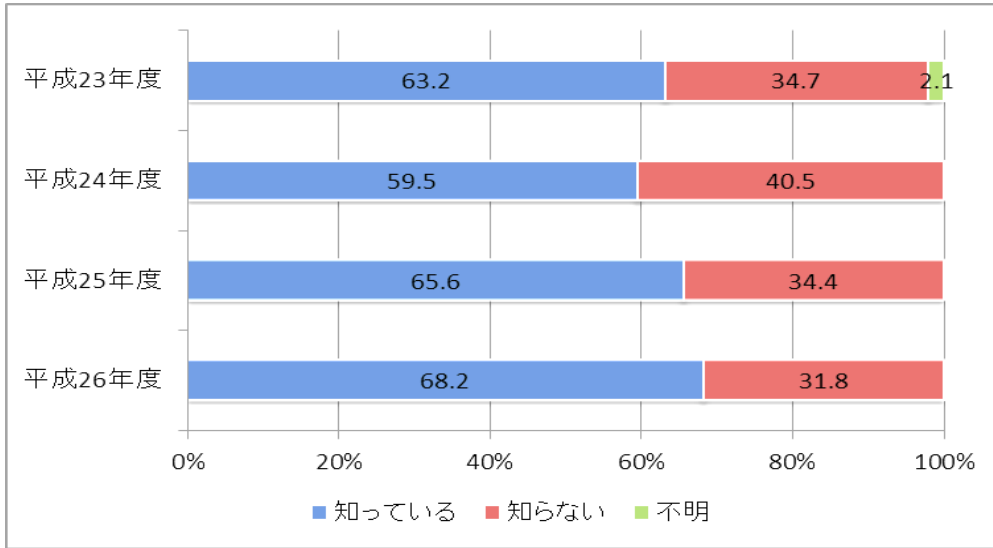
新入生の「学生寮の認知」の割合は、「知っている」74.9%、「知らない」25.1%となっており、昨年度の「知っている」76.4%、「知らない」23.6%に比べて、大きな変化は見られなかった。過去3年と比較(表6-6)した場合についても、大きな変化は見られていないことが示されている。

表 6-6 新入生の学生寮認知の比較



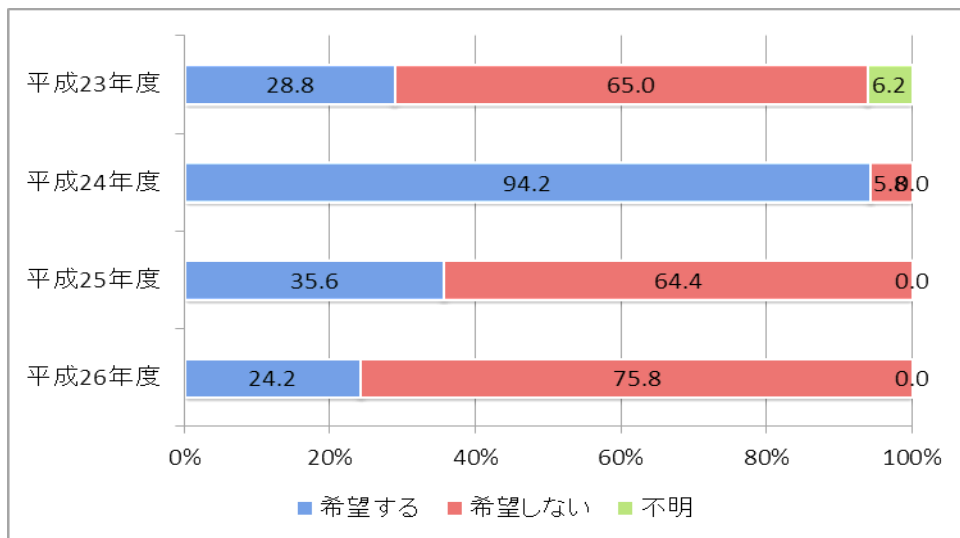
次に、学生寮について保護者の結果をまとめると、学生寮の希望(表5-1~表5-9)については、「世帯年収が低い者」、「家計支持者の年収が低い者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」であることが示された。昨年度の調査では、「家計支持者の年収」については有意な関連は見られなかったが、今年度はこのような関連が見られた。また昨年度同様、表5-3のように、学生寮について認知している者が、必ずしも学生寮を希望していないことも示された。保護者の「学生寮認知」の割合は、「知っている」68.2%、「知らない」31.8%という結果であった。過去3年と比較(表6-7)した場合に、今年度の学生寮の認知の割合が一番高いことが示されている。

表 6-7 保護者の学生寮認知の比較



保護者の「学生寮の希望」の割合は、「希望する」24.2%、「希望しない」75.8%となっており、昨年度の「希望する」35.6%、「希望しない」64.4%と比べると、希望する割合が11.4ポイント減少していることが示されている。過去3年と比較（表6-8）した場合について、平成24年度以外は毎年30%前後の割合で、学生寮を希望していることがわかる。これは毎年100名以上の学生が希望していることになる。学部生対象の学生寮では、申込段階でSCCのように所得による制限、国際学生宿舎のように自宅からの距離制限があるため、希望すると回答した全員が入寮の申込をしているかどうかは定かではない。

表 6-8 保護者の学生寮希望の比較



## (6) まとめ

本章では、新入生および保護者を対象に、奨学金と学生寮の現実と課題について検討した。

奨学金については、昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。過去3年のデータと比較すると、新入生の奨学金の認知、保護者の奨学金希望、保護者の奨学金認知は減少している傾向にある。また、日本学生支援機構の全国調査と比べて、保護者の奨学金の認知は高いが、新入生の認知は低い傾向にある。

JS コーポレーションの「高校生白書」(平成25年)によると、「出願検討時における学費面の考慮」という質問に関して、複数回答で「自宅から通える学校を選択した」(39.4%)、「できるだけ学費が安い学校を選択した」(21.0%)、「奨学金や学費支援制度が利用できる学校を選択した」(17.8%) という回答が上位になっている。このことから、出願を検討する段階から、奨学金制度についての情報を発信する必要があると考えられる。受験を希望する高校生に対して、本学でどのくらいの割合の学生が、奨学金を受給しているかといったデータは、ぜひこの新入生調査を参考にしてほしい。

学生寮についても、昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。過去3年のデータと比較すると、新入生及び保護者の学生寮認知は進んでおり、新入生の約75%、保護者の約70%が認知している。保護者の学生寮希望は減少の傾向にあるが、毎年30%前後の割合で希望がある。

近年、学生募集、グローバル人材育成、留学生の受け入れ増加といった側面からの学生寮の新設が相次いでいる。SCCのように学生の人間形成を目的とした教育寮の他にも、留学生と混住することで日本人学生は寮にいながら留学を体験できることも、魅力の一つである。しかし、私立大学を中心に新設の学生寮は寮費が高くなる傾向にあることも、また事実である。共有で使用可能な設備、備え付けの家具家電、食事の提供等は寮によって異なるため、一概に言うことはできないが、寮費の高さから希望していても入寮を断念することにもなるだろう。学生にとっては学生寮を選ぶ際に、選択肢が多くあること、各自の学生生活に合った寮を選ぶことが重要であると考えられる。